

産業建設常任委員会

日 時 令和7年1月21日（火）午前10時00分～
場 所 全員協議会室

1 開議

2 行政報告

【まちづくり推進部】

（１）全国都市緑化フェアに伴う亀岡運動公園再整備及び京都・亀岡保津川公園整備について

3 その他

産業建設常任委員会

- (1) 全国都市緑化フェアに伴う亀岡運動公園再整備及び
京都・亀岡保津川公園整備について

令和7年1月21日（火）

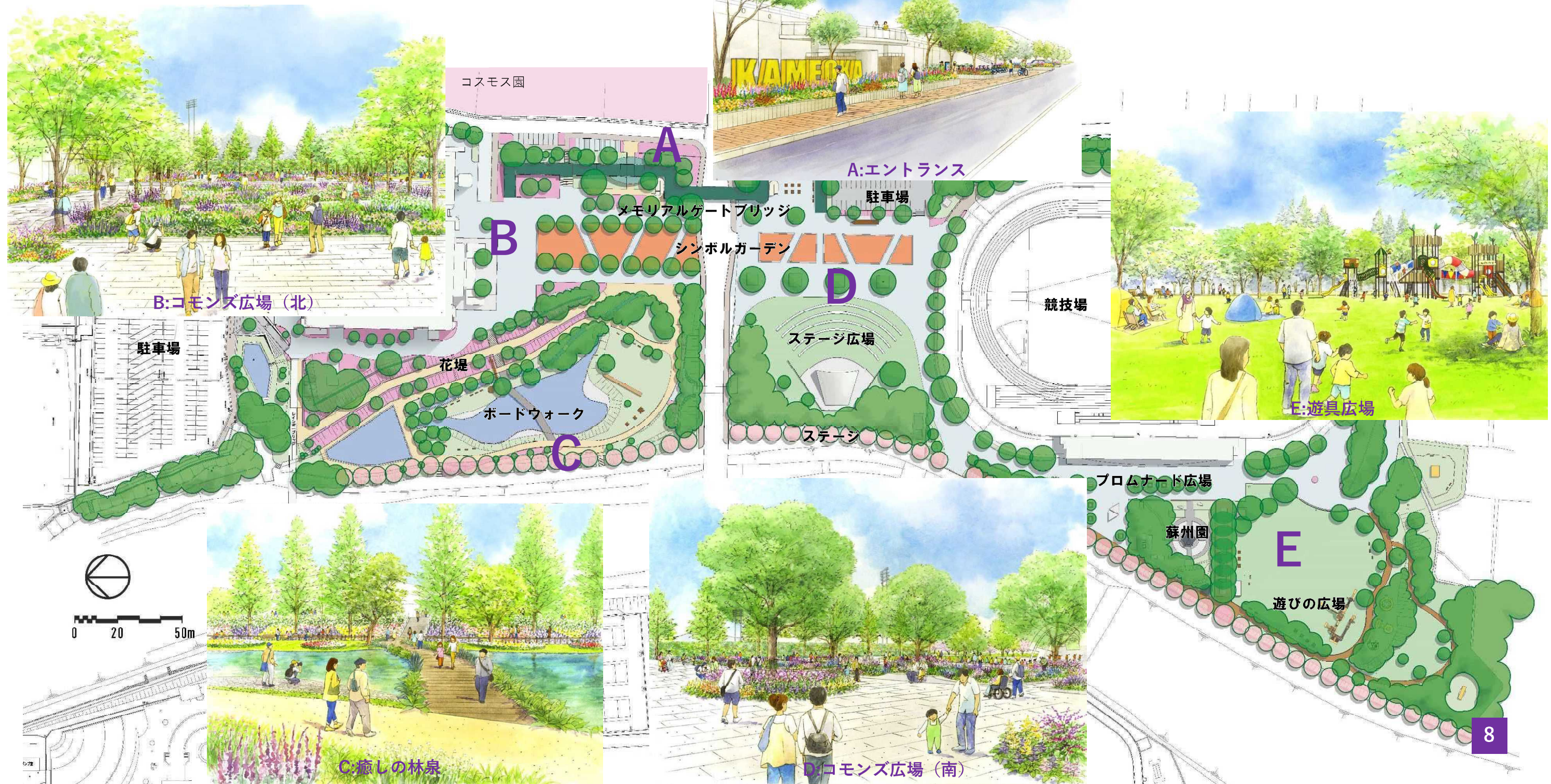
まちづくり推進部 都市整備課

亀岡運動公園再整備について

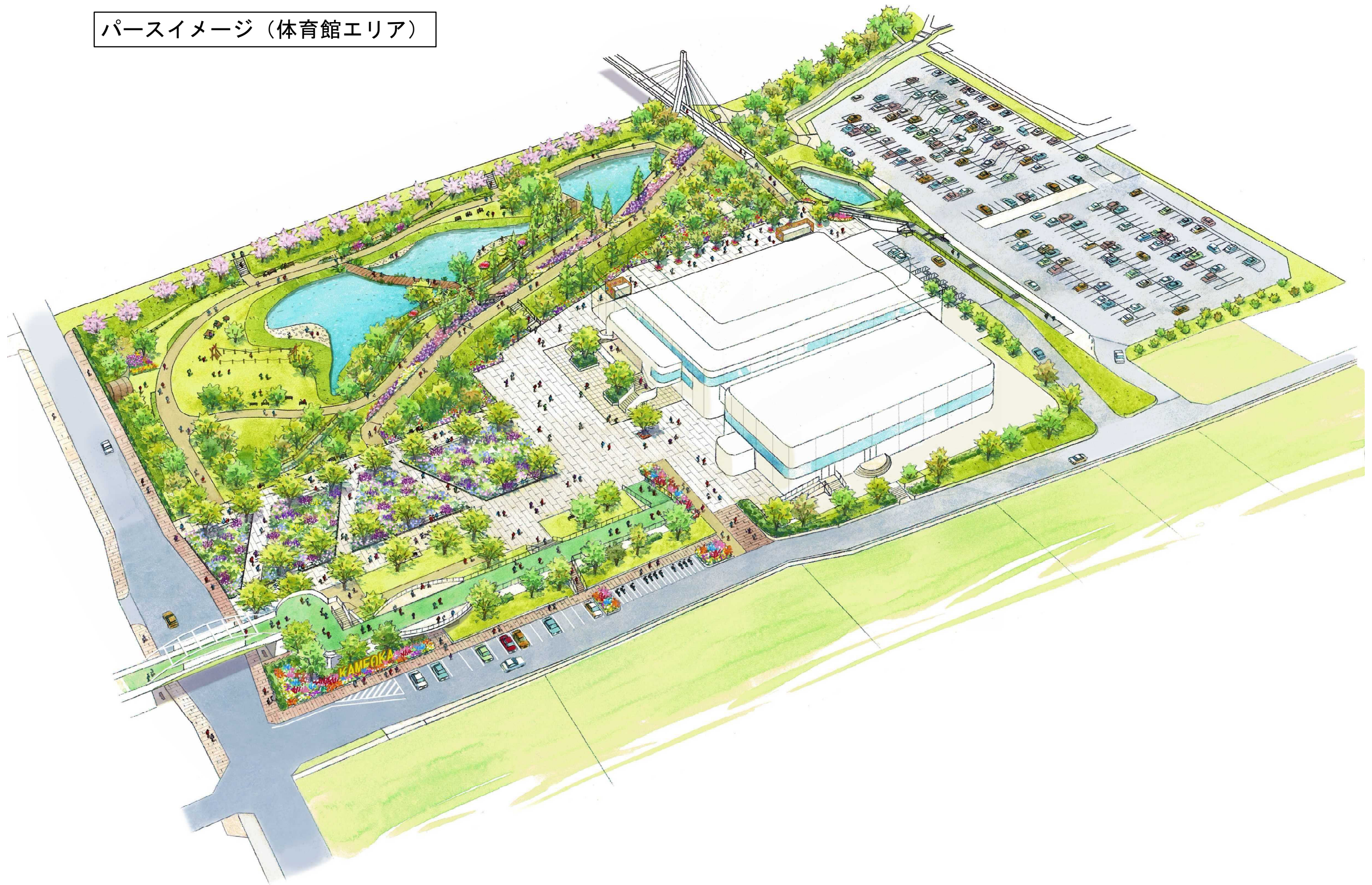
再整備計画（案）



再整備計画図（案）



パースイメージ（体育館エリア）

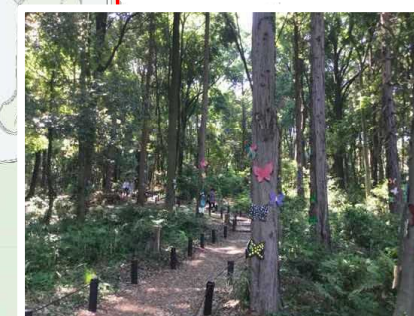
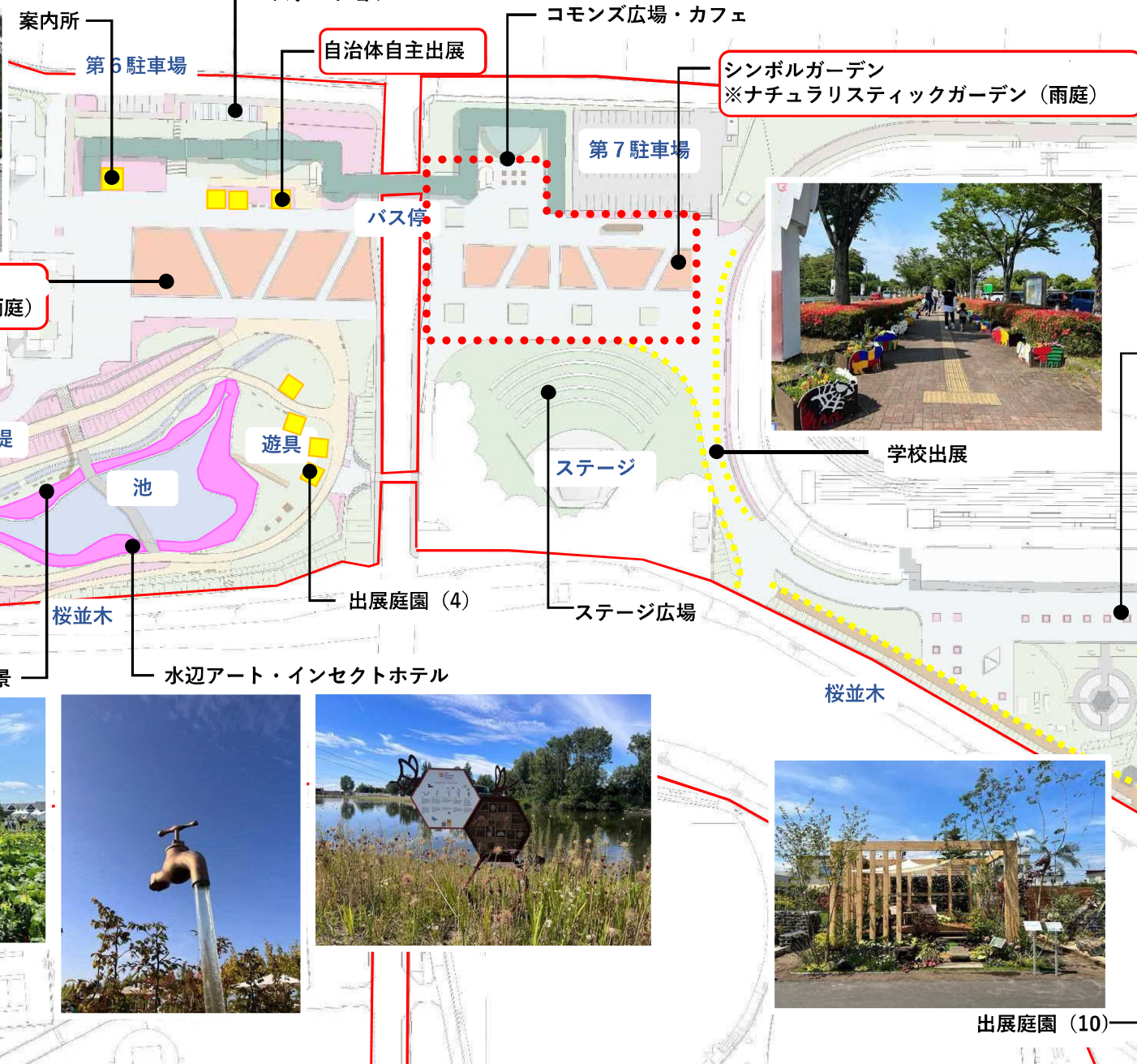


パースイメージ（競技場エリア）



フェア会場計画（素案）

コスモス園



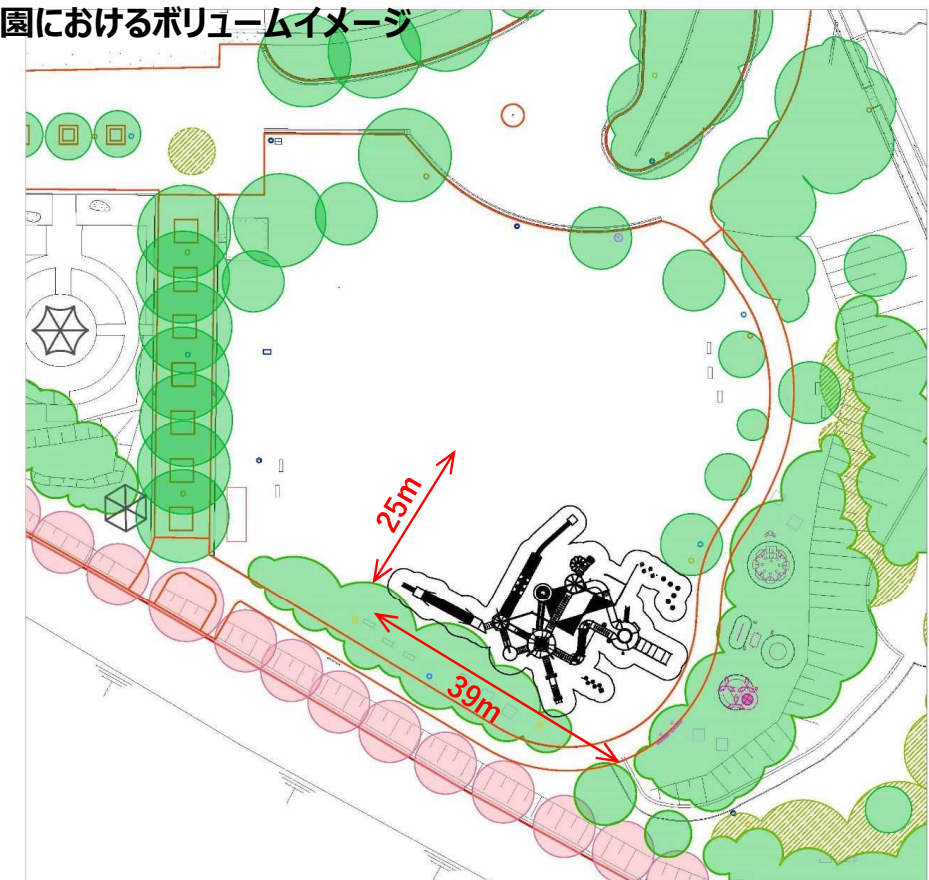
大型遊具イメージ



アイテムをバランスよく配置した複合遊具（H＝8m）

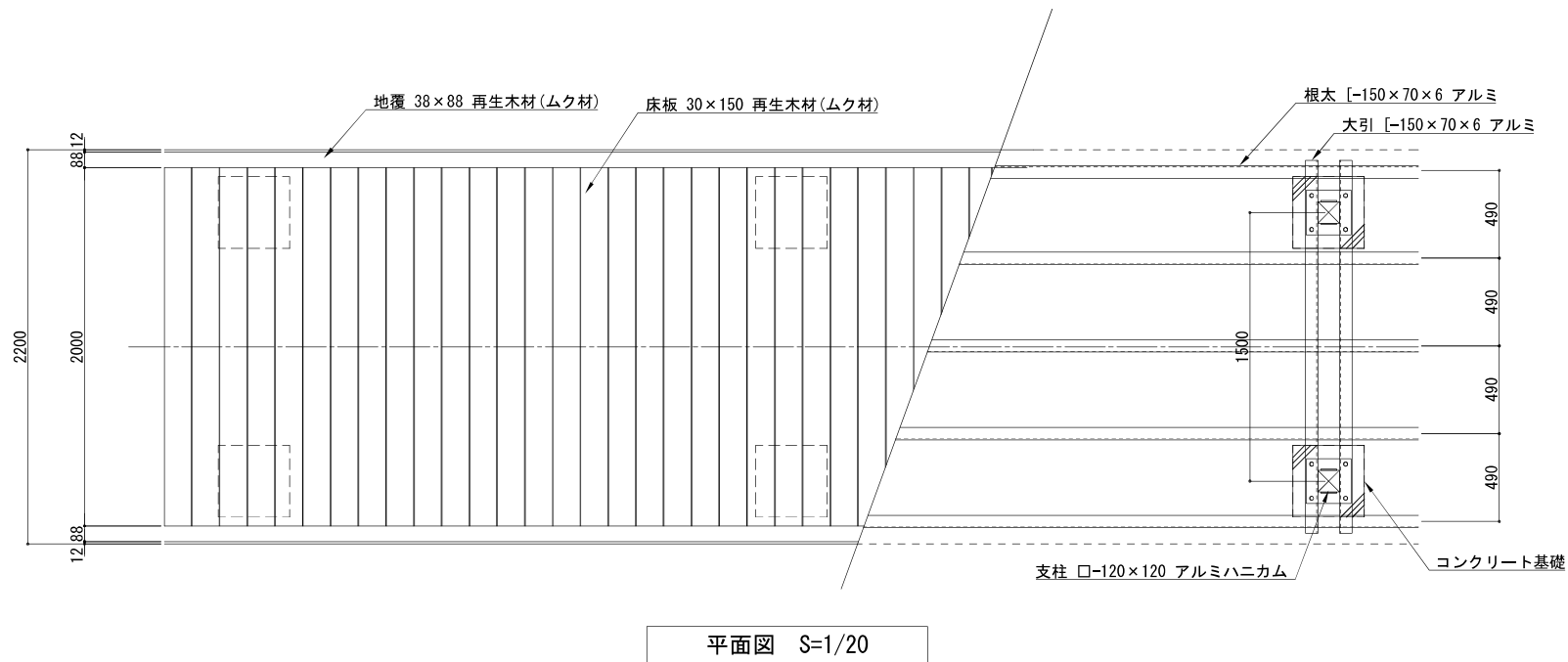


（2）亀岡運動公園におけるボリュームイメージ



※あくまでも規模感を示したものであり、デザインや仕様は、今後のプロポーザル方式により決定します。

ボードウォークイメージ



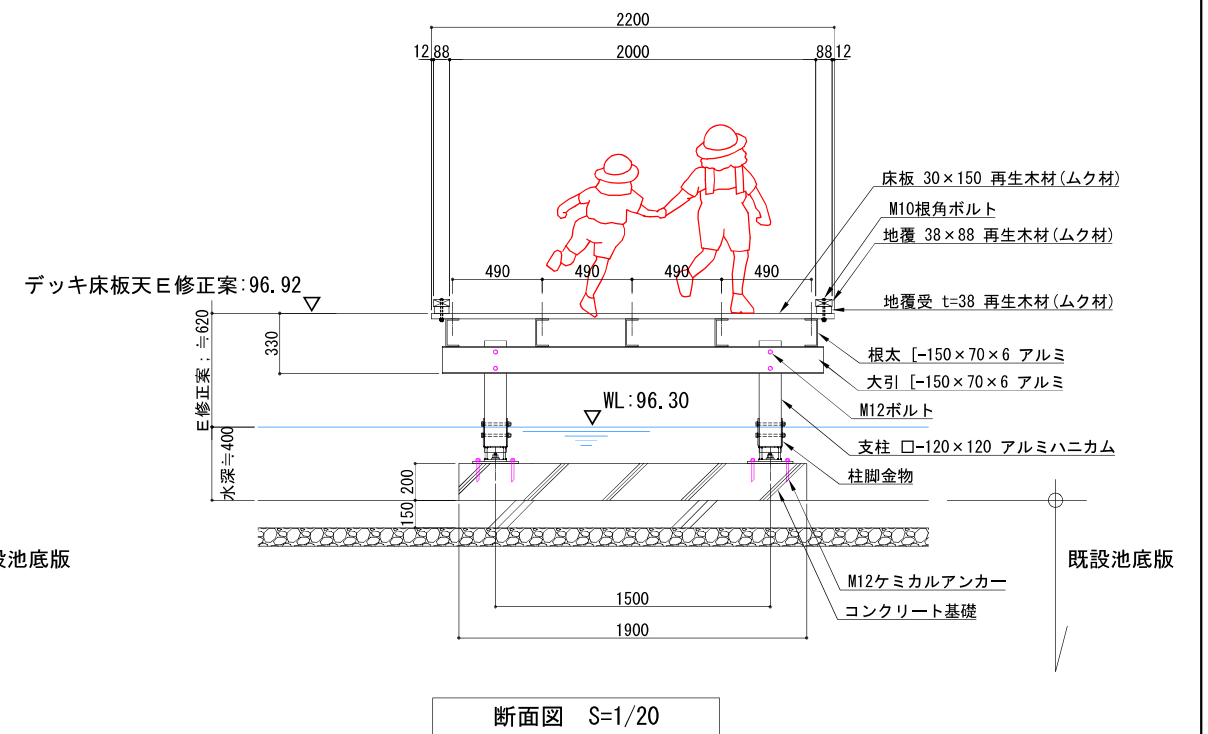
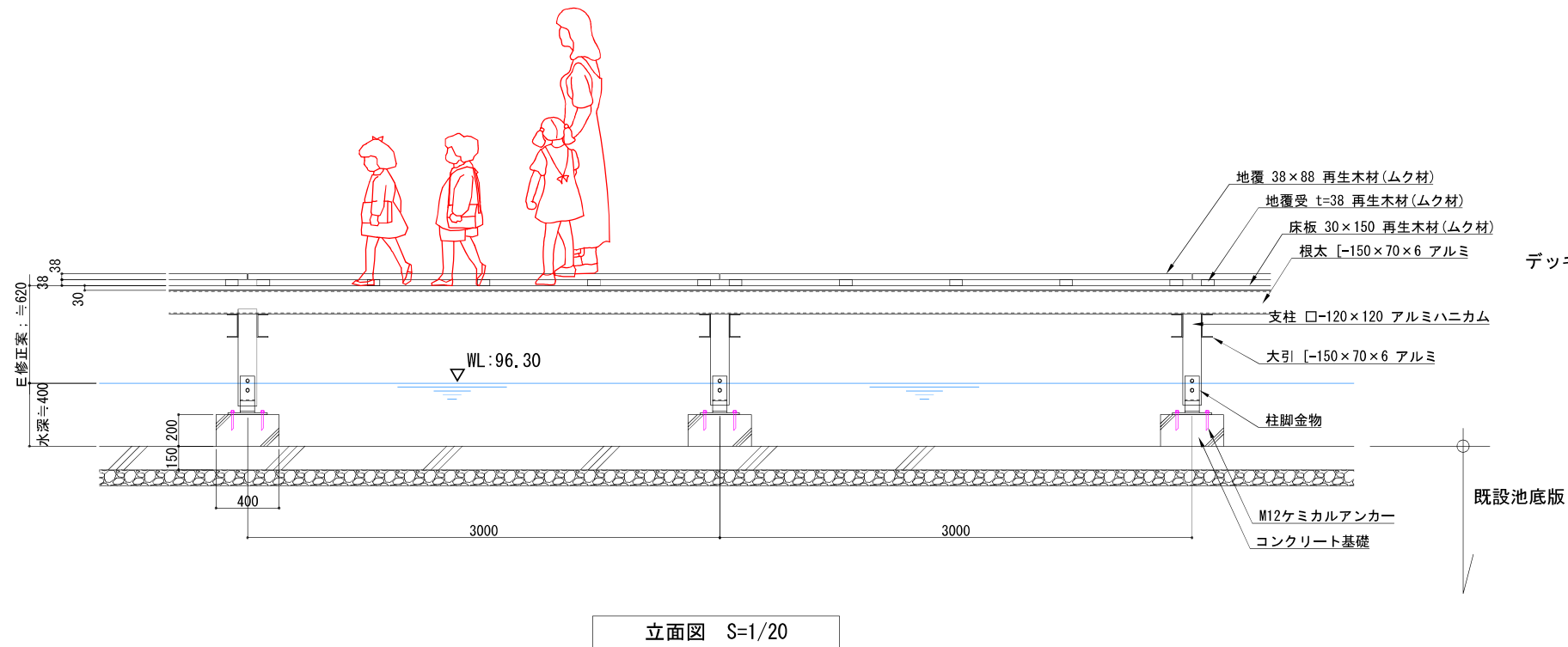
仕様

- 1) 再生木材は再生ポリエチレン45%、木粉比率50%以上の配合比率とする。
- 2) 再生木材の比重は1.3以上とする。
- 3) 構造材アルミ合金材質はA6063S-T5以上の強度を有するものとし、アルマイト処理(マットブラウン色)を施した材料とする。
- 4) 特記なき限りボルト、ワッシャー類は溶融亜鉛メッキ仕上げ、若しくは同等以上とする。(ビス類を除く)
- 5) 特記なき限り銅材類は溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
- 6) 柱脚金物はSS400(一般構造用圧延鋼材)+HDZT77(亜鉛膜厚)+塗装(19-20Bこげ茶)とする。
- 7) 図示された製品は賠償責任保険加入製品とする。
- 8) (社)日本公園施設業協会SPL表示認定企業の製造製品とする。
- 9) 支柱の長さは現況地盤により、変更することとする。



デッキイメージ S=N. S

※色彩は、今後決定していきます。



○工事スケジュール(体育館エリア)

ボードウォーク
R7.6~12

国道 372 号地下道塗装
R7.6~R7.12

メイン花壇
R8.1~R8.9

メモリアルゲートブリッジ塗装
R7.6~R7.12

園路改修(インターロッキング)
R7.12~R8.3

公園レイアウト変更に伴う給排水・電気設備工事
R7.11~R8.3

○工事スケジュール(競技場エリア)

大型遊具
R7.4~R8.3

犬飼川沿い園路整備
R7.3~R7.8

野外ステージ塗装
R7.3~R7.8

野外ステージ観覧席整備
R7.3~R7.8

国道 372 号地下道塗装
R7.6~R7.12

メイン花壇
R8.1~R8.9

メモリアルゲートブリッジ塗装
R7.6~R7.12.

園路改修(インターロッキング)
R7.12~R8.3

公園レイアウト変更に伴う給排水・電気設備工事
R7.11~R8.3

京都・亀岡保津川公園について

○工事計画図(案)(京都・亀岡保津川公園)

園路整備
R7.6~R8.3

湿地帯エリア整備
R7.10~R8.3

井水配管整備
R7.6~R8.3

上下水道整備
R7.11~R8.3

※工事計画図(案)については、現時点の案であり、今後、実行委員会等で検討され整備計画が確定することとなります。

産業建設常任委員会 令和6年度活動の総括
【R6テーマ：農林業の推進による産業イノベーションの創出】

委員名	今年度のふりかえり
林委員長	「農林業の重要性を深く追求し本市の可能性を見出していく。」この点をテーマに想いを乗せ、委員会において議論と活動を進めてきた。本市の魅力でもある農林業の衰退は、持続可能な社会づくりの未来に大きな影響を与えることに成りかねない。視察についてもこれからの事業推進において、とても参考となる充実した機会となった。現在、取り組むオーガニック農業やこれから取り組むプラントベースフード事業などの促進が本市の更なる発展につながり、何より、オープンイノベーションセンター亀岡を拠点としたグリーン・イノベーション構築にも更なる成果と実績を重ねられるような取組を後押ししていきたい。
片山副委員長	今年度は農林業に関連した産業イノベーションの創出がテーマとなり、O I C Kとも関連付けながらテーマ実現に向けての課題整理が重要であると実感した。 そのためには行政視察で見聞した宇部市の産業イノベーション相談体制の充実、下関市のジビエ施設の経営ノウハウ、岡山理科大学の好適環境水の陸上養殖などは、成功事例として大変参考になった。しかし亀岡市で何をどのように実現していくか、具体的に示せなかったことは残念であった。 農作物の高温障害対策、有機農業の除草対策、林業作業の省力化機械の開発、水耕栽培と連携した陸上養殖など、新しい技術開発に意欲的に取り組む企業が出てくることを期待したい。
法貴委員	今年度、産業建設常任委員会は「農林業の推進による産業イノベーションの創出」をテーマに、地域資源を活用した新たな産業モデルの構築に向けて活動してきた。事務事業評価では、森林活用推進事業経費を拡充と評価し、森林資源解析結果やレーザ林相図等の資料を有効活用し、持続可能な森林資源の利用促進を促すとともに、豊かな森を育てる基金を積極的に活用し、適切な森林整備、将来を担う林業従事者の育成に取り組むよう要望した。10月には森林組合に導入された自走式重機「プロセッサ」の実演視察に伺った。作業の効率化や負担軽減にもなり若手の担い手確保に繋がる救世主となることを期待したい。また、亀岡の農産物を全国に発信するため、地産地消の更なる推進や、消費者のニーズに応じた高付加価値商品の開発を検討していく必要がある。そのためには、7月に視察した宇部市のうべスタートアップの取組を参考にし、O I C Kを中心に起業、創業を目指す若者のサポートを積極的に行っていく必要がある。

委員名	今年度のふりかえり
山木委員	今年度のテーマは、農林業の推進による産業イノベーションの創出であり、森林活用推進事業経費では、森林環境譲与税は基金に積み立てられているがさらに森林の保全資源の循環利用などにも活用を広げるように期待する。また、豊かな森を育てる基金もさらに活用を進め、さらなる森林整備の拡充を望む。 そして、昨年４月２５日に完成したスマートアグリハウスの視察では、水耕栽培の先端技術による産業イノベーションやバイオ技術による高付加価値の農業を目指し地域経済の活性化に期待する。 視察においては、岡山理科大好適環境水でのウナギ養殖、また、ヒラメの陸上養殖を視察し、海水を使わず場所を限定しない未来型の魚類養殖システムを拝見し、是非本市でも取り組めるように研究を進めたい。
小川委員	農林業の推進により産業イノベーションの創出は、本市において課題である。今年度のテーマに関連した行政視察を５月２１日・２２日行った。山口県宇部市では、うべスタートアップの取組、山口県下関市では、ジビエ有効活用推進事業について、岡山県倉敷市では観光振興施策について、それぞれ現地調査を行った。また、１０月３１日の月例会では、亀岡市森林組合を訪れ、導入されたプロセッサとウッドチップperの実演を見学し、説明を受け意見交換を行った。本市の魅力ある森林を手入れし守る効果は、土砂災害を防ぎ、木材資源の活用、有害鳥獣対策にもつながる。農林業推進が進むと資源循環にもつながると感じた。人材育成と、民間企業との連携、有害鳥獣対策も民間活用と駆除された資源の有効活用ができる仕組みや施設が検討できればと思う。今後の常任委員会の取組としては、農林業の推進の取組について継続で調査研究し提案できればと思う。令和８年に開催される全国都市緑化フェア in 京都丹波の継続的な効果を願う。最後に委員会として継続してテーマに取り組むには、正副委員長は２年制が良いと考える。

委員名	今年度のふりかえり
齊藤委員	委員会としては、やはり問題のＯＩＣＫであるが、起業家育成はなかなか難問のようである。本市の企業人が現状で手がいっぱいなのか、満足なのか。ＯＩＣＫ以外の異業種交流で新規事業開拓されているのか知る由は無いが、商工会議所というより、会員に行き渡ってないのではないかと考える。 ＯＩＣＫ事務局も東京展示会等積極的に市内企業に奮起を促しているため、結果は欲しいが追い立てると現状企業紹介にとどまりそうで注視しながらも応援するべきであると思う。 鳥獣対策のジビエ処理施設であるが、ジビエのマーケットを十二分に調査する必要がある、需要と供給がマーケットに合致するならば、猟友会の若返りも含めて可能なら持続可能な施設として建設を考えるべきであると考え。 有機農法であるが、世界の先進国はオーガニックに向かっており理想であるが、永年農薬で耕作してきた農地は収穫までに数年を要し、収穫量も少ない問題があり、これを解決することが有機農家にとって最も重要である。 道路整備はいくら幹線道路を整備しても（毛細血管より動脈）国直轄の一桁国道を２車線にしないと亀岡の発展は無い。 委員会で９号線の２車線国道の要望を国交省のテーブルに上がるまでするべきである。 水道及び下水道の老朽管路整備はＧＰＳなどＩＴを導入し適材適所に無駄ない整備を行っていただきたい。
木村委員	今年度のテーマの成果については以下の３点である。 事務事業評価については森林活用推進事業経費について、森林資源解析結果やレーザ林相図の活用で持続可能な森林資源の利用促進と、将来を担う林業従事者の人材育成の取組を取り上げた事、そして今後も注視し見守ることの継続を願う。 １０月３１日には亀岡市森林組合でプロセッサの実演見学をし、大変便利な重機であることを委員会で確認できたことで、オペレーターの育成と今後の活用を期待する。 視察では、山口県下関市のジビエ有効活用促進事業で、本市でも導入を検討する機会になったことが成果である。

【産業建設常任委員会】

～指摘要望事項まとめ～

議案等			指摘要望事項
議会月	区分	内容等	
3月	条例	亀岡市保津川における舟運事業等の安全の確保等の推進に関する条例の制定について	○条例で定める目的達成のため、関係機関や近隣自治体と十分に連携し、景観への配慮を含めて安全確保等を徹底されたい。また、協議会において有事の際に対応ができるよう検討されたい。
3月	条例	川の駅・亀岡水辺公園条例の一部を改正する条例の制定について	○川の駅・亀岡水辺公園における宿泊キャンプについては、近隣住民に十分配慮するとともに、目的にそぐわない使用や近隣からの苦情等がないようしっかりと対応されたい。
12月	補正予算	一般会計 (第4号)	○公園緑地整備事業費において、全国都市緑化フェア in 京都丹波終了後も、整備した公園を市民が有効に活用し、今ある公園の魅力をさらに発信できるよう設計に当たるとともに、事業計画の進捗状況を適宜議会に報告されたい。 ○食農ブランド事業経費において、プラントベースフードの推進事業について、分かりやすく市民周知に努め、これまでのオーガニックビレッジ宣言とあわせた取組を推し進められたい。

≪産業建設分科会≫

令和6年9月決算特別委員会 事務事業評価結果

番号	事業名	評価	意見等
1	森林活用推進事業経費	1 拡充	○森林資源解析結果やレーザ林相図などの資料を有効に活用して、持続可能な森林資源の利用促進に努められたい。 ○今後、豊かな森を育てる基金を積極的に活用し、計画的に適切な森林整備に努められたい。また、将来を担う林業従事者の人材育成に取り組まれたい。
2	公園緑地整備事業費 (単独)	3 見直しの上継 続	○住民の声を聞き、防災や地域コミュニティなど、各地域における公園の在り方を見直されたい。 ○昨今の物価高騰などを考慮する中で、補助制度の見直しを検討し、地元の負担軽減を図られたい。
3	管渠布設費	2 現状維持	○昨今の異常気象を鑑み、短期間での大雨など想定外の自然災害に対応できるよう、より安全な雨水排水整備事業を進められたい。 ○事業完了予定日が延伸されているが、住民が安心して暮らせるよう迅速な整備に努められたい。